

2012年6月11日

フランス留学記

修士前期課程 1年 松浦みどり

春休みを利用し、フランスへ2ヶ月間研究留学に行つて来ました。

2012年2月23日、卒論の公聴会を終えた次の日、私はフランスへ向かう飛行機の中にいました。機内では言語のこと、研究のこと、更には初めての一人暮らしなど、様々な不安が浮かんできましたが、そうこうしているうちに翌日、目的地であるマルセイユに無事到着しました。しかし散々不安がっていたのにも関わらず、いざ空港に降り立つと、不思議なことにフランスにいるということ自体がすごく嬉しくワクワクし、これから2ヶ月この国で暮らすということが本当に幸せなことなんだなあと感じました。

私は卒業研究、そして今後2年間の修士研究で浮体式洋上風力発電に関する研究を行っています。この留学ではマルセイユにある大学、Ecole Centrale Marseille (以下ECM) に2ヶ月間滞在し、海事流体力学の権威者であるBernard Molin先生のもと、この浮体式洋上風力発電の研究を行いました。ここECMでは現在、世界最大の原子力複合企業であるAREVA社と浮体式洋上風力発電の共同研究を行っており、幸運にもその研究グループに参加させて頂きました。この中で主に運動解析プログラムの開発や水槽試験などを行いました。Molin先生は物理現象のモデル化と現場ベースの研究をととても大切にする先生です。先生のもとで研究させて頂き、海洋開発の現場で見られた複雑な現象の中から重要な要素だけを抽出し、単純なモデルで表すことが研究者にとって重要なスキルの一つなのだと感じました。

また今回のフランス留学ではマルセイユだけではなく、ブルターニュ半島の先端近くにあるIFREMER (フランス国立海洋開発研究所) も1週間訪問しました。移動では人生で初めてLCCのRyan Airを利用しマルセイユから1000km近く離れたブレストまでわずか40ユーロで移動することができ、欧州の格安航空のクオリティーの高さに驚きました。さて、IFREMERはパリ郊外の本部およびブレストを含め国内外に5研究所(センター)、24ステーションを持つ世界有数の研究所で、約1400名のスタッフを抱え、年間予算は1.5億ユーロというとてつもない規模です。素晴らしい設備の整った試験水槽や目の前に海が広がるオーシャンビューの研究室を見学し、ここでも自分の卒論発表を行いディスカッション行う機会を頂きました。一流の研究者達の前で慣れない英語での発表でしたがECMでの発表に続き2回目ともなり、自分の中では研究のポイントを伝えることができたと思います。フランスではプレゼンの発表中でも適宜質問がバンバン飛んできて、フランス人の物おじせずにとんどん意見をいう性格が見えました。ただ裏を返せば本当に私の発表を理解

しようとしてくれているのがわかりとても嬉しく感じました。また、ここ **IFREMER** では研究者も含め女性職員が多く、フランスの女性就業率の高さも感じることができました。

フランス滞在 60 日。後から考えるとまるで 2 ヶ月が 1 秒のように感じられました。出発前夜は夜通しフランスの友人たちと遊びました。遊び過ぎて、飛行機に間に合わないのではないかと思うくらい、生ハム、チーズ、バケット、ワイン、そしてフォアグラとフランスを満喫しました。とにかくフランスを離れるのは寂しかったです。

洋上風力発電を研究する私が欧州で権威ある先生のもと研究できる。こんな機会を与えられ、毎日を充実した日々を過ごすことができました。今までの自分の視野である、日本から見る世界に加え、フランスから見る日本、更にはフランスから見る世界が少し見えたと思います。60 日という短い期間でしたが、今後 2 年間の修士課程、とはいわず今後の人生、この経験を生かして生きていきたいと思っています。

尚、この留学は 2011 年 6 月にオランダで行われた学会 **OMAE2011** において **Ecole Centrale Marseille** の **Bernard Molin** 先生、**IFREMER** の **Marc le Boulluec** 氏に直接交渉し実現したものです。また留学資金は大阪府立大学の国際交流課が応募している短期留学支援制度を利用し大学より支援頂きました。残りは、大学近くのヨットハーバーでアルバイトをさせて頂きました。お世話になった皆様に御礼申し上げます。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました指導教官の二瓶先生に深く感謝申し上げ、この留学記を締めくくらせて頂きます。

